

O's NEWS



子供にもおこる脳卒中：もやもや病とは

脳神経外科医長 砂田 拓

もやもや病という名前をご存知でしょうか？1950年代に日本で最初に報告され、その名の通り脳血管がタバコの煙のようにもやもやして見えることから名付けられました。日本など東アジアで頻度が高く、1万人に1人程度の割合で発症するとされ、国の難病指定を受けています。女性に多く、発症時の年齢は5～10歳と30～40歳にピークがあるとされます。原因はまだはっきりとは分かっていませんが、10%程度に家族歴があるため遺伝素因の関与が指摘されています。脳を栄養する血管が進行性に細くなることで異常血管(もやもや血管)が発達し、大人は脳出血、小児は脳虚血症状で発症することが多いとされます。典型的には「**リコーダーを吹いたら意識が遠のく**」「**大泣きしたら手足に力が入らない**」「**全力疾走したら手足が痺れる**」などの症状が出る場合があります。これらは運動や



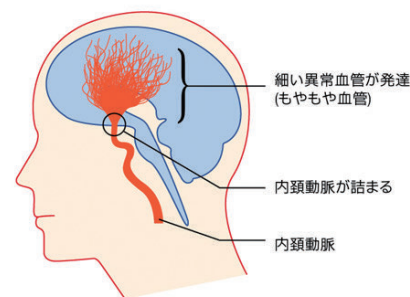
過換気などにより脳への血流が減少することで起こりますが、症状は一過性(数分～30分以内)の事も多く、頭痛のみで発症する事もあるため軽い

症状であれば気づかれにくい事もあります。

診断は頭部MRI検査などで行いますが、より詳しい検査としてカテーテルを用いた脳



血管撮影検査を行う場合があります。検査の結果、外科的治療が必要となれば一般的には2種類の手術方法があります。頭蓋外の血管を頭蓋内の血管に直接つなぎ合わせるバイパス術(直接吻合)と脳の表面に血流豊富な組織を貼り付ける手術(間接吻合)で、この両方を同時に行う事もあります。手術によって頭蓋外から頭蓋内(脳)へ血流を増やし、脳循環を安定化させます。治療がうまくいけば機能予後は比較的良好とされており、当院でもこれまで多くの患者様の治療を行ってきました。子供にも起こりうる脳卒中で、早めの対処が重要です。気になる症状がある際はお気軽にご相談下さい。



大西脳神経外科病院といえば、多くの方は急性期病院のイメージがあると思いますが、実は回復期リハビリテーション病棟もあることをご存じでしょうか!!? 2017年に開設し、現在50床まで拡大し、自宅退院を目指して日々患者様がリハビリに励んでおります。

そんな回復期病棟をご紹介します。回復期病棟の入院期間は、急性期病棟と比べると長く、平均して100日前後～最大150日となります。そんな入院生活の中で少しでも楽しみや、気分転換ができるようにと、当院の回復期病棟ではレクリエーションチームが壁画の作成や、七夕や夏祭り、クリスマス会など様々な催し物を行っております。レクリエーションを通して、言葉の出にくい患者さんが歌によって声がでたり、ベッド上では物静かで、あまり動かない患者さんが夏祭りに楽しそうに元気よく参加していたり・・・そんな患者さんの意外な一面や、笑顔が生まれる

ことで、私達病棟スタッフも元気をもらっています。

コロナ禍で外出泊や面会も制限されております。入院生活のストレスが以前と比べて増大している中で、患者さんが楽ではないけど、楽しくリハビリを続け在宅を目指す環境を私達は多職種のチームで学び、よりよい、取り組んでいきたいと励んでおります。



認知症になっても自分らしく過ごすために

認知症看護認定看護師 北3階病棟 副看護師長 相原 加奈

団塊の世代の多くが後期高齢者となる2025年には、65歳以上の高齢者のうち5人に1人が認知症になっていると言われております。このデータを見ると、認知症がより身近であり、不安になる方もおられると思います。しかし、認知症になったからと言ってすぐに何も出来なくなると言うわけではありません。認知症になっても、仕事を継続されている方や住み慣れた自宅で生活されている方も沢山おられます。

認知症が進んでくると、自分のやりたい事、困っている事を周りの人に伝えにくくなってきます。これにより、介護者との関係悪化や人生の最期をどのように過ごしたいかなど、自分の思いと反する結果となるケースも少

なくありません。

コロナ禍で顔を合わせて話をする機会が減りつつありますが、人との関わりを維持することは認知症の予防としても大切だと言われております。

自分のしたいことや好きなこと、人生の最期に向けてどのように過ごしたいか、どうしてほしいのか、自分にとって大切な人と話をする機会を日々の中で作れたら、もしもの時の安心につながるのではないかと思います。

当院でも認知症の方へのケアについて考える『認知症・せん妄ケアチーム』が出来ました。ご入院中の患者さんへの対応のみとなっておりますが、不安やお困り事がありましたらスタッフへお声かけください。



二十四節気と七十二候のお話



きさらぎ 2月(如月)

寒さの厳しい毎日、服を更に着る「衣更着(きさらぎ)」などから如月に。鬼ハ外♪福ハ内♪節分の豆まきにも力が入りますね。

二十四節気
大寒
たいかん

1/30~2/3(七十二候) 鶏始乳 / にわとりはじめてとやにつく

春の兆し、ニワトリが卵を産み始める頃。卵の旬は2~4月(有精卵)。毎月30日は晦日(みそか) = 「味噌の日」。江戸時代のことわざで「医者に金を払うよりも味噌屋に払え」。味噌には人間に欠かせない9種類のアミノ酸すべてを含み「身近な万能薬」と言えるでしょう。



一節気
立春
りっしゅん

2/4~8(第一候) 東風解凍 / はるかぜこおりをとく

春を呼ぶ風が氷を溶かします。立春とはいえ寒さは本番ですね。この時期、園芸店に並ぶ「プリムラ・ジュリアン」。プリムラ(Primula)はラテン語で「最初」を意味し、春の訪れを最初に教えてくれる花とされました。かわいらしいその花は寒さに強く種類も豊富です。



立春♪寒さはまだですが、窓辺に差し込む光に春が感じられます。

2/9~13(第二候) 黄鶯睨腕 / うぐいすなく

梅の花の香る頃、「ホーホケキョ♪」のさえずりが聞こえます。2月12日は「亀馬がゆく」「坂の上の雲」などの作者、司馬遼太郎の命日です。「菜の花の沖」など菜の花を好んだことから「菜の花忌」。1923年大阪市生まれ



2/14~18(第三候) 魚上氷 / うおこおりをいずる

凍っていた川の氷が溶けて、魚が元気に飛びあがる頃、目に浮かぶようですね。季節の魚「いとより」。赤・黄・金銀の筋目が糸がねじれたように見えることから「糸より」と呼ばれます。焼き魚、煮魚に上品な味わいです。



二節気
雨水
うすい

2/19~23(第四候) 土脉潤起 / つちのしょううるおいおこる

寒さがほんの少し和らぎ、大地がゆるみ潤い始める。春のかすかな足音。2月22日は「ふーふーふー」でおでんの日だそう。(ニャンニャンニャンで猫の日とも♪) 静岡おでん、名古屋の味噌おでん、などご当地おでんも沢山♪



あちら、こちらに小さな春を見つけた頃。お散歩に出かけましょう。

2/24~28(第五候) 霞始靄 / かすみはじめてたなびく

「春は霞」。大気が潤い山々がぼんやりと霧がかかります。早春の寒さが厳しいこの頃に見られる「猫柳」。かわいらしい猫のしっぽのようなフワフワの銀色の花は小川の畔や湿地で見られます。花言葉は「自由」「親切」。



季節の野菜 「ネギ」

ヒガンバナ科ネギ属 英名: Welsh onion

寒い冬に旬を迎えるねぎ、日本へは奈良時代に伝わったとされ、古くから栽培され親しまれた歴史のある野菜です。白い部分(土寄せして栽培)を食べる「根深ネギ(長ネギ)」、緑色の葉の部分が多い「葉ネギ(青ネギ)」に分かれます。

東の長ネギ(白ネギ)(千住ネギ、下仁田ネギなど)、西の青ネギ(九条ネギ、博多万能ネギ)と言われますが、最近は用途に合わせてどちらも人気です。

冬の白ネギは煮ても焼いてもトロツと甘く美味しいですね。温かいおうどんにたっぷり九条ネギ♪あーたまりません。



外来担当医表

(血)血管内治療 (顔)顔面の痛み・けいれん (FUS)集束超音波治療

		月	火	水	木	金
1 診	午前	大西	大西(宏)	久我	茶谷	河田
	午後	高橋<血>	大西(宏)<血>	久我	茶谷	河田
2 診	午前	高橋<顔>	砂田	角田	富士井	担当医<血>
	午後	吉村	砂田	角田	—	脊椎・脊髄外来 山本
3 診	午前	担当医	担当医	担当医	佐藤	担当医
	午後	担当医	担当医	担当医	佐藤	担当医
5 診	午前	担当医	担当医	担当医	担当医	細川
	午後	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
6 診	午前	—	脳神経内科 小坂田	脳神経内科 赤谷	脳神経内科 小坂田 第4週 てんかん 田村	第1・3週 脳神経内科 阿部
	午後	脊椎・脊髄外来 山本	脊椎・脊髄外来 山本 脳神経内科小坂田<FUS>	脊椎・脊髄外来 山本	第1・3週 脳神経内科 森原 第4週 てんかん 田村	第1・3週 脳神経内科 阿部

※診察受付時間:月~金 <午前>8:30~11:30 <午後>13:30~16:30

※毎週金曜日13:00~ 7診 麻酔科 鈴木

(2023.2)

※第1・3週金曜日9:30~12:30、13:30~16:30 6診 脳神経内科 阿部

連携協力医療機関のご紹介

No.64

やすずみ眼科

院長:安澄 衛一郎

【認定資格・所属学会】日本眼科学会認定眼科専門医

【診療科目】一般眼科、神経眼科、小児眼科

【住 所】明石市大久保町江井島915-2

【電 話】078-947-6606

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	/
15:00~18:00	○	手術	○	/	○	/	/

休診日:木曜・土曜午後、日曜、祝日



安澄院長からのメッセージ

目に関してご心配な事があればお気軽にご相談ください。

No.104

さいとう内科クリニック

院長:齊藤 雅也

【認定資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本超音波医学会専門医、日本静脈経腸栄養学会

【診療科目】一般内科、消化器内科、肝臓内科、呼吸器内科、循環器内科、訪問診療

【住 所】神戸市西区竜が岡1-15-3

【電 話】078-967-0019

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	/
16:00~19:00	○	○	○	/	○	/	/

休診日:木曜・土曜午後、日曜、祝日



齊藤院長からのメッセージ

当院では肝疾患の原因をエコーを用いて、専門的にしっかりと調べ、一人一人の患者さんに全力でお役立てできるよう心がけています。大西脳外科さんとも密に連携をとっています。患者の皆様、困ったときは力になります!



公式LINE

〒674-0064 兵庫県明石市大久保町江井島1661-1

TEL:078-938-1238/FAX:078-938-1236 mail info@onc.akashi.hyogo.jp http://www.onc.akashi.hyogo.jp/

地域医療連携室 TEL:078-938-1288/FAX:078-938-0399

発行責任者:理事長 大西 英之 編集責任者:院長 久我 純弘



ホームページ